

生命健康科学研究所紀要、第 20 号の発刊によせて

生命健康科学研究所 所長 山下 均

生命健康科学研究所紀要（第 20 号）の発刊に際し、研究所所長としてご挨拶を申し上げます。本研究所は 2004 年 6 月に生命健康科学部の新設に先立って設置され、学部創設の生みの親として機能しました。その後、病気を予知・予防して健康・長寿を享受しながら「人生」を全うできるような生活を目指した「21 世紀の健康を科学する研究所」として活動を進めて参りました。超高齢化社会を迎えつつある現在、「よりよく生きる」ことのできる健康長寿社会を実現するために、ライフサイエンスに立脚した新しい開発型科学技術の創成を目指しております。現在、本研究所では国民の半数が罹患する悪性腫瘍や、増加の一途をたどる認知症などの神経・精神疾患や肥満・糖尿病などの生活習慣病、新型コロナウイルスに代表される新興・再興感染症など、様々な疾病の発症・進展機構の解明ならびに予防と治療法の開発を進めています。また、発展する IT 技術の活用を進めつつ、看護と介護のための新たな医療・看護技術やリハビリテーション科学の開発研究および教育システムの確立のために邁進しています。

本研究所の使命は、大学院(生命健康科学研究科)の教員および大学院生の研究力の向上のための拠点となることですが、現在、本研究所は 4 つの研究部門(保健看護、メディカルエンジニアリング、一次予防教育、ヘルスサイエンス)をその活動単位とし、大学院における創造的、先進的基礎研究をリードする役割を担っています。またこの過程で、生命健康科学部 6 学科(生命医科学、保健看護学、理学療法学、作業療法学、臨床工学、スポーツ保健医療学)の研究分野間の共同研究や各研究分野独自の研究を推進し、その成果の発信を促進することにより、人々の健康や QOL の向上に貢献することを使命としています。本研究所では、これまでに二つの大型企画が文科省等により採用され、大型研究プロジェクトとして展開されました。まず、2008 年に文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された『生活環境因子誘発性疾患の予知・予防に関する戦略的研究』であり、55 号館の建設と共に研究所の発展に寄与してきました。もう一つは、2013 年度に採択された文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」の一環、「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」です。ここでは、本学と春日井市が連携し、大学の持つ人材や技術、知の資産を活用して地域再生・地域活性化に取り組んできました。また、本研究所は研究所内外の教育・研究者、学生、一般市民を対象とした様々なセミナーを企画・開催しています。例年、生物機能開発研究所との共催による「中部大学ライフサイエンスフォーラム」を開催し、生命健康科学の進歩に関連する最新の知見を広く提供しております。本年度のフォーラムは、認知症研究の第一人者である日本歯科大学新潟生命歯学部高齢者医療学教授、道川誠先生に「ア

ルツハイマー病の発症ならびに進行予防への挑戦～歯周病や歯の欠損、ビフィズス菌摂取などとの関連から～」と題して、アルツハイマー病の基礎から口腔疾患との関連、およびビフィズス菌摂取によってアルツハイマー病の発症を予防できる可能性について最新データを紹介いただきました。

さて本研究所では、研究活動の年度成果を、学内外に広く紹介するとともに、学生教育への一助とするために、内容をわかりやすく、解説的に紀要に掲載することにしております。発刊 20 年の節目を迎えた本年度の紀要は、ライフサイエンスフォーラムの講演報告に加えて、総説 5 編、解説 17 編、および研究報告 9 編、と過去最多となる内容となりました。寄稿された方々には心より感謝申し上げます。多くの方々にご一読賜わり、当研究所の活動にご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。